

青葉区少年野球連盟大会規定

平成17年9月4日改訂

1.大会適用規則

全日本軟式野球公認規則、競技者必携および大会特別規則を適用する。

2.打順表の提出と攻守の決定

(1)試合開始予定時刻の30分前または、前の試合の5回終了時までには球場に到着している選手のみを記載した打順表3通(控えも含む全ての選手名に必ずふりがなを付す)と試合球2個を本部に提出して登録原簿との照合を受けた後に、球審立ち会いのもとに攻守を決定する。

打順表提出後、球場に到着した選手については、球審に申し出て本部の承認を得て打順表に追加記載した場合に出場できる。

(2)参加申込書提出後は、選手の変更、追加および背番号の変更は認められない。

(3)遅れるか人数が揃わないかその他の理由で試合開始時刻になっても試合のできる状態をとれないチームは、原則として棄権とみなす。

(4)試合中ベンチに入れる人員を次のとおりとする。

代表者1名、監督1名、コーチ2若以内、スコアラー1名、マネージャー1名、選手20名以内
選手は10名以上がベンチに入らなければならない。(13名以上が望ましい)

(5)背番号は1番から20番までとし、主将は10番、監督は30番、コーチは28番・29番をつけること。(これ以外の背番号はベンチに入れない)

(6)ベンチは、抽選番号の若いチームを1塁側とする。

3.大会特別規則

(1)試合は7回戦とする。但し、試合開始後1時間30分を経過したら、試合の回数に関係なく正式試合となってその回が最終となり、新しいイニングに入らない。(同点で終了したときは、抽選により勝敗を決定する)

(2)試合が7回を終了して同点のとき

試合開始後1時間30分を経過しているときは、抽選により勝敗を決定する。

試合開始後1時間30分を経過していないときは、特別延長戦を行う。

(3)特別延長戦

継続打順とし、前回の最終打者を一塁走者とし、二塁・三塁の走者は順次前の打者として、無死満塁の状態にして1イニングおこない、得点の多いチームを勝ちとする。(投手はのぞいてもよい)なお、同点の場合は抽選により勝敗を決定する。

(4)降雨その他の理由による正式試合(コールドゲーム)となる回数を4回とする。

(5)得点差によるコールドゲームは3回以降10点差、5回以降7点差とする。

(6)特別継続試合

試合が4回以前に中止になった場合(ノーゲーム)でも、4回を過ぎ正式試合になって同点の場合(タイゲーム)でも再試合にしないで、後日に特別継続試合としてもとの試合の中断された箇所から再開する。両チームの出場選手と打撃順は、試合が中断されたときと全く同一でなければならない。

ただし、規則によって認められる交代は許される。また、もとの中断された試合に出場して、他のプレーヤーと交代してその試合から退いたプレーヤーは、再開される試合に出場できない。中断された試合と通算して1時間30分を経過したら、新しいイニングに入らない。

(7) 監督に限りグラウンドに出て指示や、選手交代を主審に申し出ることができる。

(8) 抗議できる者は、監督と当該プレーヤーとする。

(9) 公認野球規則3・03〔原注〕の前段は採用しない。したがって、投手の守備位置の交代は自由である。

公認野球規則8・02〔A〕投手の禁止事項の内「ボールに異物をつけること」、「どんな方法でもボールに傷をつけること」だけを採用する。

(10) 不正登録および二重登録が発覚した場合、1年間の出場停止処分とする。

4. 用具・装具

(1) 使用球

大会使用球は、連盟公認のC号ボールとし、同一メーカーのものを使用する。

(2) バット

金属・ハイコン(複合)バットは、連盟公認(J S B B)のものに限る。

雷発生に備えて木製バットを2本以上用意すること。

球場内に素振り用パイプ・リングを持ち込まないこと。

(3) ヘルメット

打者・次打者・走者およびベースコーチは、両側にイヤーフラップがあり安全マーク(S G)のついた連盟公認(J S B B)のものを着用すること。

捕手は連盟公認(J S B B)捕手用ヘルメットを着用すること。

(4) マスク

連盟公認(J S B B)のもの以外は使用できない。

(5) レガーズ・プロテクター

捕手はレガーズ・プロテクターを必ず着用すること。

(6) スパイク

スパイクは、金具のついたものは使用できない。

(7) 手袋

選手の手袋の使用を認める。

5. 試合のスピード化に関する事項

(1) 攻守交代は駆け足でおこなうこと。ボールは投手板近くに置いて交代すること。第3アウトが成立したら、選手は素早くベンチを離れ、守備位置に向かうこと。

特に、バッテリーは準備投球があるから率先してベンチから出ること。

(2) 各回の先頭打者と、次打者およびベースコーチはミーティングに参加しないで、直ちに所定の位置につくこと。

(3) 捕手は、投球を受けたらその場から投手に返球すること。

(4) 投手は、捕手の返球を受けたら直ちに投手板について投球姿勢をとること。

(5) 投手が捕手のサインを見るときは、必ず軸足をプレートにつけること。

- (6) 打者は、速やかに打者席に入って打撃姿勢をとること。
- (7) 次打者は、次打者席で低い姿勢で待機すること。投手も必ず実行すること。
- (8) 打者は、打着席内で監督のサインを見ること。みだりに打者席をはずさないこと。
- (9) 走者がスパイクの紐の結びを直すためのタイムは認めない。
- (10) プレーヤーが負傷などで治療が長引く場合は、相手チームに伝え、試合に出ている9人の中から臨時の代走(コーティシーランナー)を認めて試合を進行させる。(代走は打順の前位の者とし投手は除く)

6. 大会に関する注意事項

(1) 選手

グローブからの指出しを禁止する。

投球練習(控え投手も含む)のときに捕手は必ずマスクを着用すること。

投手は手首へのサポーター、リストバンドの使用を禁止する。なお、負傷により包帯等が必要なときは、球審および本部の承認を得ること。

ベンチ前にグローブ、バット、ヘルメット等の用具を置かないこと。

(フリーエリアのため)

次の試合の投球練習は、5回以降または試合終了予定の30分前からとする。

(捕手は必ずマスクを着用すること)

打者は投球練習中ネクストバッタースボックスで待機すること。

(素振り投球練習に合わせて行なわないこと)

打者走者の 塁へのヘッドスライディングは禁止する。

サングラスの使用を禁止する。サングラスの必要な選手は、本部の了解を得ること。

球場内外でのバットの素振りを禁止する。

(2) 指導者

監督、コーチ以外もチーム帽を着用し、スポーツのできる服装とすること。半ズボン、スカート、革靴、サングラス等は認めない。タオルなどを首にかけないこと。

グラウンド周辺で練習を行なう場合、周辺住民や他の競技者に配慮しトラブルを避けること

監督、コーチのユニホーム(原則、靴も含む)は、選手と同一とすること。

指導者等は、ベンチを離れてタバコを吸いにいったとき再入場を認めない。

監督が不在のときは、代理監督(コーチ28または29)を本部まで連絡すること。

(3) 応援者

応援で野次などの目にあまる行為があったときは、当人に厳重注意するとともに、当該チームの監督を退場させることもある。

ゴミはチームで必ず持ち帰ること。

7. 試合方法

(1) Aクラスは予選リーグ戦およびトーナメント戦とし、Bクラスはトーナメント戦とし敗者戦も行なう。Aクラス決勝戦にもコールドゲームを適用する。

(2) Aクラス予選リーグはブロックで構成した各ブロックを主将会議で抽選し、各ブロック

のリーグ戦を行なう。ブロック代表は最多勝利チームとし、勝利数が同率の場合対戦チームの勝者を勝ちとする。

なお、それでも決定しない場合はトーナメント5回戦の試合を行い決定する。

Aクラスはブロック代表チームによる決勝大会を行なう。

(3) Aクラス・Bクラスとも各塁間は23メートル、投手と本塁間は16メートルとする。

(来春も同じ)

8.その他

(1)ファールボールは、1塁側のボールは1塁側ベンチ、3塁側のボールは3塁側ベンチ、本塁後方のボールは攻撃側で処理すること。

(2)試合参加チームは、試合終了後選手が自主的にグラウンド整備を手伝うこと。

(3)球場関係者と無用のトラブルを起こさないよう関係者の指示に従い、言動に注意すること。

(4)監督・主将会議で決められた事項は、チーム全員に必ず徹底させること。

(5)球場内ではトスバッティングもフリーバッティングも許されない。

(6)試合開始、終了の挨拶時には、代表・監督・コーチ・スコアラー・マネージャーも自軍ベンチ前に整列して、併せて挨拶すること。

(7)シートノックは、原則として第一試合についてのみ5分ずつ認める。

(シートノックの時間が短いので、指示に従い速やかに行なうこと)

(8)本大会競技中に負傷等の事故が生じても主催者はその責を負わない。

(各チームにて全員、傷害保険に加入のこと)

表彰 Aクラス優勝～3位、Bクラスには優勝・準優勝に賞状、賞品等を授与する。

その他 本大会競技中に負傷等の事故が生じても主催者はその責を負わない。

「ベンチ内で試合中にタバコを吸うのはやめること。」

問合せ先 連盟事務局 ミトミススポーツ青葉台店 983 3362

ホームページ <http://members.goo.ne.jp/home/aoba02>